

1	チーム名 (研究対象領域・教科)	小学部 こくご1		
2	メンバー	小学部教員8名		
3	チームのテーマ	生活に根ざした文字の「読み」と「書き」の学習		
4	対象児童に願う主体的な姿			
	「書き」グループ	「読み」グループ		
	対象児	願う主体的な姿	対象児	願う主体的な姿
	A	・模倣による線や形を書けるようになることで、より意欲的に学習に取り組む姿	C	・平仮名が読めることで、周囲の情報を整理し、主体的に動くことができる姿
	B	・身近な単語を平仮名や片仮名で書くことで、意欲的に学習に取り組む姿	D	・物の名前を覚えたり、読める文字を増やしたりすることで読むことへの関心を高め、意欲的に学習に取り組む姿

## 5 研究実践の内容

### (1) 「書き」グループ

#### ○対象児A

《願う主体的な姿》  
模倣による線や形を書けるようになることで、より意欲的に学習に取り組む姿

《実践》  
・サインペンを使用し、書いた線がはっきり見えることで自信を持てるようにする。  
・書く位置が分かりやすいように、白抜き印刷やグラデーションの文字の印刷で学習を進める。  
・花丸で賞賛することでできた経験を積み重ねる。

《成果》  
書く活動に自信がついてきて、自分から取り組もうとする姿が多くなってきた。

《課題》  
・「できた！」経験をさらに多く積み重ねること。

#### ○対象児B

《願う主体的な姿》  
身近な単語を平仮名や片仮名で書くことで、意欲的に学習に取り組む姿

《実践》  
・なぞり書きや平仮名・片仮名カードの視写を行い、書き順や形を意識させる。  
・視写しやすいように、本人が書く大きさと同じ大きさのカードを使う。身近なもので、3文字程度の言葉を取り上げ、意欲を持たせる。  
・マス目のある印刷を用意し、語順を意識させる。

《成果》  
時間割等よく目にする言葉は何も見ずに書けるようになってきた。できると感じると意欲も出て、集中して取り組む時間も増えてきている。

《課題》  
・文字の形や書き順を意識して書くこと。

### (2) 「読み」グループ

#### ○対象児C

《願う主体的な姿》  
読める文字が増えることで、周囲の情報を整理し、自分から動くことができる姿

《実践》  
・カード取りゲームを通して、読める単語を増やす。  
・文字列が似ている文字から正しい単語を選ぶ学習をし、正確に分かる文字を増やしていく。  
・50音シールから選んで、給食の献立を貼ったり、絵に対応する文字を1つずつ選んで単語を構成したりする学習を進める。

《成果》  
文字だけでわかる単語が増えたことで、生活の中で少しずつ情報が整理できるようになってきた。

《課題》  
・平仮名を使って単語を構成していくこと。

#### ○対象児D

《願う主体的な姿》  
読める文字を増やすことで読むことへの関心を高め、意欲的に学習に取り組む姿

《実践》  
・本児の見やすさに配慮し、大きな文字カードを使い、見て読む経験を積み重ねる。  
・捉えやすい文字や読みたい言葉の文字へ焦点を当てて、読みの学習を進める。  
・知っている文字のまとまりが多い「今日の子」の単語から、イラストと文字のマッチングを行う。

《成果》  
自分で読めたという自信が文字への関心につながり、様々な場面で文字を意識を向けるようになった。

《課題》  
・画数の多い文字や似た形の文字の読みへ広げていくこと  
・文字に意味をもたせ単語としての読みにつなげること

## 6 まとめ

「児童に願う主体的な姿」からグループごとに話し合いを行い、文字の読み書きに関する児童一人一人の学習のねらいを設定して、それぞれ研究を進めた。文字の読みに関する認知の向上や書字等技術面からのアプローチのみでなく、文字に興味関心をもつきっかけとして、「できた」「わかった」という自信を持たせる学習の展開、文字による情報が自分にとって有効であるという児童自身の気づきを促す環境や状況の設定が重要であることについても、それぞれの実践を通してわかった。